

「持続可能な地域づくり」ワーキンググループ 第8回会議 議事要旨

1月11日(火)15時～17時開催

於: CANPANセンター(海洋船舶ビル8階) セミナールームにて

【主な議題】

●報告

- ・12/24合同部会の共有
- ・地域円卓会議 in 茨城開催準備状況

●協議

- ・成果目標について
- ・本WG提案の位置づけについて
- ・11年度の実施体制作りに向けて

●報告

□ 12/24の合同部会について

地域WGの素案の発表、社会的責任円卓会議全体に対しての議論が行われた
地域WGに対して出された意見・質問は以下のとおり。

- ・成果目標は何かしかが求められるのではないか
- ・他の3つのWGでも今後地域展開が求められる。

持続可能な地域づくりをテーマに地域に円卓を作っていくことについては合意できている。

他のWGが取り扱うテーマとのすり合わせが必要ではないか。

- ・自治体の関わりが重要。

他のWGの状況についても共有した。

他のWGの事業の中に地域関連の事業が含まれている。

持続可能な地域づくりWGとどの程度歩調を合わせるべきか、本WGで議論したい。

□ 地域円卓会議 in 茨城の状況について

1月19日(水)開催に向けて調整中

農業・資源循環、外出支援をテーマに会議を開催

もともと地縁的な関係性があった部分を活かしての開催。

それぞれが大切だと思っているテーマを出して共有する。

今回はあくまでプレ会議。正式発足には代表者性の問題が出てくるので、案件の共有を想定。

プレ会議を経て2月18日(金)に開催予定。

Q: 円卓会議に出席する各セクター代表者の正統性を確保するプロセスは？

A: 現在は声かけと円卓会議に出席するセクターのバランスに重点が当てられていて正当性の議論まではできていない。予備会議は数回開いており、その延長線上で開催している。呼び

かけはしているが、民主的なプロセスを要求しているわけではない。

●協議

□ 成果目標について

- ・ 地域ごとの解決をするのが地域円卓会議の特徴で、成果目標は掲げない方がよい
 - ・ 他のWGもどうやるかについては書いていない。いっしょにやっていたほうが全体で作った形になって見えやすいのではないか。
 - ・ 他のWGと連動しないと成果を出しにくい。「共に生きるWG」、「人をはぐくむWG」などは今後求められるテーマであり、連携しつつ成果目標を定めた方がよい。
 - ・ 地域課題があればまかせようというのが合意。円卓的手法を定着させるのがこのWGの成果目標。課題についてはそれぞれ出されている中でやれるものがあればやればよい。他のテーマに縛られる必要はない。住民が主体的に参加することが成果目標。
 - ・ 手法やプロセスの定着が成果目標であるのはその通り。4つのWGができたときの理由は何だったかを考える必要がある。
 - ・ 今後の円卓会議の推進体制についてはフィックスされていない。
 - ・ 各地域ごとの円卓会議が成果目標を設定することが重要。
 - ・ 地域円卓の開催を支える行為については合意されている。その上位目標が定められていない。
 - ・ 円卓手法の定着(プロセスの普及)が成果目標の一つ。もうひとつのテーマ(具体的な議論の課題)については地域が選ぶようにしておかないと、地域からの反発もあるのではないか。選んだ課題についてどこまで実現したかは測れる。そこについては開いておくべき。
 - ・ 新しい公共のプロジェクトとの整合性について。地域には色々な切り口で取り組みがある。成果目標をテーマで絞りすぎると、地域では難しい。
 - ・ プロセスの定着に徹底した方がよい。
 - ・ 文言としては「円卓プロセスを活用しつつ」とある。自治体が是非、ということと、もともとある機能とどう整合性をとっていくかという自治体とがある。
 - ・ 地域課題を共有し、それぞれの役割が責任を持つという仕組みが見えている。
 - ・ テーマが決まらないと呼びかけができない。今までやっているところもある。なにか新しいことをやろうということに立ち入ることが難しいのではないか。
- ★ このWGとしてはテーマを決めずに例示をする。
- ★ 課題を例示して「手法としての定着」を目標とする。

□円卓会議全体の「行動計画」「協働プロジェクト」を視野に入れた本WG提案の位置づけについて
4つのWGは横並び？or 行動計画から「全国」と「地域」に分ける？

□11年度の実施体制作りに向けて

地域で誰がどう進めるのか？

各セクターでできることは？

こういう方法でやれるのではないかという意見をいただきたい。

- ・ 地域でのネタの提供、組み立てについて、誰かが世話係をすることになる。
- ・ 日本の社会保障が不安定になる中で、地域自治を描いて活動してきた。自分たちの問題だと気付くように。ボトムアップで色々な切り口で仕掛けていくとうまくいくのではないか。ボトムアップのネットワーク会議とトップダウン的な全国レベルでの話。最初は小さいものが大きくなっていくボトムアップと、大きな円卓の仕掛けの両方がつながることが必要。
- ・ どんなメンバーが入ると円卓が整うか。商工会議所、JC、信用金庫。寄付文化を作っていくにしても行政・民間も一緒になって仕掛けていく必要がある。
- ・ 知多では5自治体とNPOで居場所づくりをテーマに取り組みを行っている。また大学生の福祉活動をテーマに取り組みをしている。
- ・ 神戸では震災をテーマに活動が始まったが、NPOとのネットワークや行政との関係はでき始めてきたが、他セクターとの連携はようやく始まったばかり。テーマは様々あるが、他セクターとの連携は始まったばかり。
- ・ 最近では公共の支援事業、認定NPO法人取得と寄付文化の醸成
- ・ 市民ファンドづくり(京都地域創造基金、神奈川子ども未来ファンド、大商が設立した大阪コミュニティ財団等)コミュニティ財団型と主張型のよいところをうまく取り入れられないか。
- ・ 神戸SB円卓会議などがあるが、方向性は定まっていない。
- ・ 15か所の推進体制をどう作っていくか。
- ・ 文書で呼びかけるより、例示して「見にきませんか?」と呼びかける方がレスポンスがある。現場を進める人と、議論する人は役割分担した方が良い。
- ・ 「ともに生きるWG」でアイデアが出ていたワンストップサービス、青森の多重債務者の取り組みなど、すでにパイカトリプルでやっている会議を広げていくことができないか。

★ それぞれのセクターから、どこかをモデルにして、広げていく可能性のある案件を出していただきたい。既存の取り組みにこういうエッセンスを加えると円卓になる、これを円卓に育てていこうという種を出していただきたい。

★ 円卓的にすすめていくということはこういうこと、というのを見せたい。

今後のスケジュールでは、

1月20日の合同会議で日程が決定

次回地域WG会議: 1月24日(月)10~12時

2~3月に最終報告・体制・WG文章の取りまとめを行う

次回までに具体的案件提供のお願いについてメールで共有